

今までの取り組みの成果を力に “もう一步踏みだそう！”

第3回理事会にて活発に討議

1月29日(土)、水戸市民会館において県平和委員会の第3回理事会が開催されました。(29名参加・日本平和委員会の岩槻事務局長も参加)①第2回理事会(9/18)以降、秋から年末の取り組みの総括、②6月の県大会までの具体的な取り組み、③仲間づくり、の3つの柱で行なわれました。また、財政、「平和かわら版」についての報告がありました。なお理事会提出議案は第4回常任理事会(1/14)で討議しました。以下、概略を報告します。(事務局長 木村 泉)



- 暮れに宣伝カーを回した。1人加入し、飲みながら平和の話をした。日本全国に基地がある。どのくらい金を使っているのか宣伝してほしい。「米軍の抑止力」といっても、金は殆んど日本が出していることを国民に知らせることが大切だ。
- 意見広告などの事業収入に頼らない取り組みが必要だ。
- 今年は市から、有力団体として名刺交換会に招待された。いろいろな団体と交流しながら活動している。
- 核廃絶の宣伝行動をのべ14回やった。今後も核兵器廃絶運動を平和運動に位置付け、取り組みを進めたい。
- 意見広告の賛同を呼びかけたが、マスコミも政府の言い方そのものになっていることもあり、「沖縄、沖縄と騒いでいるの」
- 平和広告でも平和ワインの普及でもみんながんばって取り組んできた。しかし、10年も同じ様なことをやっていると、制度疲労を起こす。
- 日本平和委員会でも沖縄の問題を切り口にしてたたかいの中身を提起している。伊波さんは敗れたが、「普天間基地は県内移転」と言っていた仲井真知事に「県外移転」を言わざるを得なくさせた。沖縄の基地問題を取り組むことで、平和の実現に接近できる。
- 世論調査のデータは信用してもよいが、その世論をつくり出すため、当の朝日新聞を含め、大量のマスメディアが世論づくりを誘導していることを押さえる。ここに来て有識者にも「安保の見直しが必要」という意見が出ている。10年くらいの展望で、安保をなくす運動を進める必要があるのではないか。

1. 年末までのとりくみの総括と経験の交流

県議選(12/12)などの多忙ななか、各平和の会・平和委員会は経験や力量に応じ、多様な方法を考え、積極的に取り組みました。

(1) 秋の平和宣伝活動(9月末から10月)

県平和委員会作成の「共通の願い—基地はいらない—」チラシを、沖縄の普天間基地撤去のたたかいと連帯し、県民に訴え、7万枚を県内全域に配布しました。

(2) 安保・沖縄学習会(10/24 石岡グリーンパレス)

山田敬男学習協会長を講師に35人参加しました。沖縄知事選(11/28)支援の一環で、「基地のない日本と沖縄」を実現する筋道を、「抑止力論の克服」と「多数者の連帯」の視点で説明しました。沖縄知事選カンパは、全国の運動に連帯し、19万円送金しました。

(3) 平和意見広告(11月から12月)

「沖縄から米軍基地をなくそう—平和に生きる権利を取りもどそう—」と、賛同者・団体を募りました。団体賛同は昨年並みの130口でしたが、個人賛同は1135口となり、約130口の減でした。昨年実績を超える目標を設定しましたが、減少となりました。賛同者・団体の一覧表を作成、掲載広告とともに印刷・配布します。なお、平和広告は12月8日付「朝日新聞茨城版」に掲載しました。



(4) 平和ワイン販売(12月)

「ワインは国産で品質が良い」「ワインを飲んで平和を語ろう」など、品質や運動のねらいを平和かわら版等で情宣しました。一方、時間と手間、財政の問題から、「独自ラベル作成」は実現しませんでした。昨年を上回る725本を普及しました。

【出された意見】(要約)

- 平和ワインで「独自ラベルができなかった」という報告があったが残念だ。ラベルに「平和」があることで話が弾む。
- 「イラク戦争」や「核兵器廃絶」などの新聞広告では反響がすぐに来たが、今回の新聞広告に関する問い合わせはなかった。琉球新報の記者は「沖縄の方たちは本当に喜んでくれた」と言う。県内では「沖縄のことは沖縄の問題だ」という声は多い。今後の課題になると思う。
- 1月に宮古島に行ったが、近くの下地島は買収され全部国有地になっていた。那覇の自衛隊を移動させると言う。南西諸島に巨大な米軍基地を作るといふ話もあり、住民は困惑している。
- 平和広告を朝日新聞に出すのは無駄と考えている。むしろ、「平和ポスター」を作成して各家庭に配布するほうがいいのではないかな。毎年やっているのでもンネリになっていることも考えられる。賛同者の一覧表を早く作成してほしい。
- 「米軍基地の抑止力」では、マスコミが「抑止力としての在日米軍の必要性」という世論形成をはかっている。平和委員会では「本来の抑止力とは、日米安保をなくして、憲法九条の立場に立って対応すること」を訴えることが大切ではないか。
- 12月に、佐世保で行われた平和大会に参加した。東南アジアでは核兵器を入れない動きが進んでいる。日本は、旧安保のころは本土を含めて2834の米軍基地があった。本土の基地に海兵隊も駐留していた。大きな反対運動が起こり、本土での維持が難しくなり当時アメリカの施政権があった沖縄に集結していった。新安保50年で「辺野古に基地を新設・強化して居座らせてもいいのか」というたたかいだと思う。

【裏面につづく】

平和新聞

2011年2月5日号(土曜日)

1947号(毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 **日本平和委員会**
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版

平和新聞茨城版

No. 585

2011.2/5

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

【第3回理事会報告つづき】

2. 仲間づくりと具体的とりくみ

「全体で月5名の拡大」を方針化してから3年になります「仲間づくりは各平和の会の自主性にまかせる。」草の根運動が、大会で確認された方針です。しかし月5名（年間60名）達成が難しい状況にあります。

- ・大会までの半年間、仲間づくりを統一して行ないます。
- ・県委員会では、加入促進のためのパンフレットを作成します。

【常任理事会からの提案】

1. 「仲間づくり推進本部」と「仲間づくり推進委員」設置します。

- ・県に、臨時的措置として「仲間づくり推進本部」を置き、機動的責任は常任理事会及び理事会が持ちます。
- ・「推進委員確認期間」は3月末、具体的な取り組みは県大会までとします。

- ・拡大目標を100名とします。

2. 仲間づくりの方法

①代表理事・常任理事・事務局長・理事の役員が仲間づくりの先頭に立ちます。

②各平和の会平和委員会では仲間づくり推進委員を募ります。
・常任理事、理事を中心に「1人3名の仲間を増やす推進委員」を募る。

・「1人3名増」が困難な場合は「2人で3人増やす」やりでとりくむ。

③活動交流集會をはさみ、3月末まで「仲間づくり推進委員」を募る時間に充てます。

④4月から具体的な加入の働きかけをします。

3. 各平和の会は、自分の地域だけにこだわらず県内どここの市町村・役場・学園から仲間を迎え入れます。

【出された意見】（要約）

○爆発的に仲間を増やそうと言う提案だ。平和委員会は草の根運動だから、「拡大は押し付けない」と言うことでやってきた。日本平和委員会も20,000名の仲間作りを提起し、1000名を6月の全国大会までに実現しようという。茨城でも純増で100名を実現したい。

○一人で仲間づくりはいろいろな意味で困難だ。相棒とやることで元気が出る。

○提起されたことは理解できる。一方では身近に会員を増やすことも提起してきた。身近な会員と言うのは家族会員だ。会則にも記載されている。家では「家族九条の会」を結成した。「仲間づくりはまず家族から」を考えるべきだ。

○私も家族会員を加入させている。結びつきを大事にして語り合おう。家族を説得しよう。理論武装も大切だ。お互いに情報を出し合い、それを吸収しあうことも大切だ。

○世論調査では日米安保が必要だと思っている人は70%近くを占めている。その人たちを説得するには必要な資料がほしい。

○平和守ることを話すことが重要だ。こちらから枠を作らないで呼びかけることが大切だ。

○世論調査の数字で活動すると言うことではない。なんといわれようと骨っぽく平和を守ることを訴える。軸足は崩さない。そこに困難な中でもやりがいが出てくる。

熱気を帯びた話し合いの結果、県大会まで100名の仲間を迎え入れる事を申し合わせました。

3. 今後のとりくみの確認

- (1) 百里初午祭 2月11日（金） 11：00～
- (2) 県平和委員会活動交流集會
・3月5日（土） 13：00～17：00 場所：水戸市民会館
- (3) 憲法フェスティバル 5月3日（火） 9：30～
- (4) 茨城県平和委員会総会の準備
・6月11日（土） 場所：県立青少年会館大研修室
- (5) 2011年度 平和委員会全国大会
・6月25日（土）～26日（日） 神戸市 費用は個人負担。
- (6) 茨城平和委員会再建20周年記念事業を開催します。
・記念式典を挙行政します。（時期・場所 未定）・記念誌の編集を行います。

今年も大いに語ろう！

県平和委員会活動交流集會のお知らせ

それぞれの地域の平和の会・平和委員会のユニークな取り組みや成果をみんなの活力にするために、できるだけ多数の方の参加をお願いします。

日時：3月5日（土） 13：00～17：00
場所：水戸市民会館

『代表理事・常任理事はこんな人』

第13回目は、常任理事・山口 由夫さんです。
（石岡平和の会）



私は、貧農の家で四男として、1944年の戦争末期の時代に生まれました。父は、戦争に3度召集されましたが、直ぐに解除となり戦死は免れました。伯父2人のうち『1人が戦死、もう1人はシベリアに抑留され帰還した』などの話しを聞きながら育ちました。

私は、民主教育のもとで戦争は犯罪行為と教えられました。社会人になり、労働組合運動に参加、経済要求闘争と、ベトナム戦争反対・安保条約改定反対・沖縄返還運動、と政治色の強い運動にも参加しました。結合した闘いは、前進することも学べました。

平和についても、日常普段に意識して、多くの人々との連帯、多様な行動・運動が大切という思いで、平和運動・文化運動に関わっています。

人生は折り返し点をかなり過ぎましたが、がんばりたいと思います。

革新懇 茶の会

街づくりを考える

だれもが、安心して、豊かに暮らせる街をめざして

日時：2月26日（土）午後1時30分～4時半
ところ：茨城大学共通教育棟2号館 1階10番教室
資料代：500円

- コーディネーター：田中 重博 氏（茨城大学副学長）
パネリスト：宇佐神 忠捷 氏（茨城県自治体問題研究所理事）
斎藤 義則 氏（茨城大学人文学部教授）
立川 力 氏（イオ・内原地区連絡協議会事務局長）
間宮 孝子 氏（新日本婦人の会茨城県本部副会長）
松澤 博 氏（茨城商工団体連合会会長）

どなたでも参加できます。

